

序

熊本野生生物研究会 会長

坂 田 拓 司

2016年4月に発生した熊本地震は多方面に大きな被害を与え、現在も再建の途中にあります。会員の中には職場や自宅に被害を受けられ、日々の生活や調査研究活動の再起に御苦労されている方もいます。また、阿蘇地域とその周辺では地震と地震後の豪雨で数多くの斜面が崩落し、住民の方への被害はもちろん、動植物へも多大な影響を与えました。自然災害の脅威を目の当たりにした思いです。

本会も一部の活動が中断を余儀なくされました。しかし、生活の落ち着きと共に通常の活動に戻りつつあります。これから会員のみなさまが互いに協力しながら地道な調査研究活動に取り組み、本会の活動が自然環境の復興に寄与できればと祈念しています。また、被害を受けられた会員の方々へは会費の免除等の措置を運営委員会で緊急に決定し、御案内しました。

さて会誌8号の出版後、本会の活動や関連分野でいくつかのトピックがありました。環境保全功労者表彰、熊日出版文化賞受賞、外来生物のクリハラリスの順調な駆除とアライグマの急速な侵入、RDB 2019に向けた調査・執筆、第5回カモシカ特別調査の開始、第1回みなみ阿蘇野の花コンサート～はなしのぶ～での活動紹介などです。これらの活動には多くの会員のみなさまにご協力頂きました。大変感謝しております。

2018年度総会において役員体制が一新しました。これまで本会をリードされてきた高添清会長が顧問に就任されました。高添前会長にはこれまで本会の発展のために様々な努力を尽くされてきました。厚くお礼申し上げます。後任にはわたくし坂田拓司、副会長に長尾圭祐・中園朝子、事務局長に免田隆大の体制となりました。課題は山積し微力さを痛感していますが、みなさまの御協力をお願いし、本会が益々発展するように努めます。本会規約にある「会員相互の情報交換と親睦を計り、野生生物の調査研究を行うとともに、これらを通じて自然に親しみ、環境教育の発展と生物多様性の保全に寄与することを目的とする」を念頭に置いた会の活動を推進していく所存です。

近年の本会の事業では、設立30周年記念事業として2015年2月に出版した「くまもとの哺乳類」(東海大学出版部)が特筆されます。日頃の活動の成果をまとめた集大成であるとともに、本会の活動を社会へ広く伝えることに繋がりました。このように学術的な出版は本会の活動の中でも基礎に据えるべき事業の一つです。その意味で、地道な調査研究の記録となる会誌発行は重要です。

この会誌9号の発刊にあたって、投稿頂いた会員の方々やご尽力いただいた編集委員に加えて、審査に御協力いただいた審査委員のみなさまには特に厚くお礼申し上げます。「くまもとの哺乳類」とともに、本会の今後の発展のためにも忌憚のない御意見をお願いして挨拶の言葉といたします。

2019年1月吉日